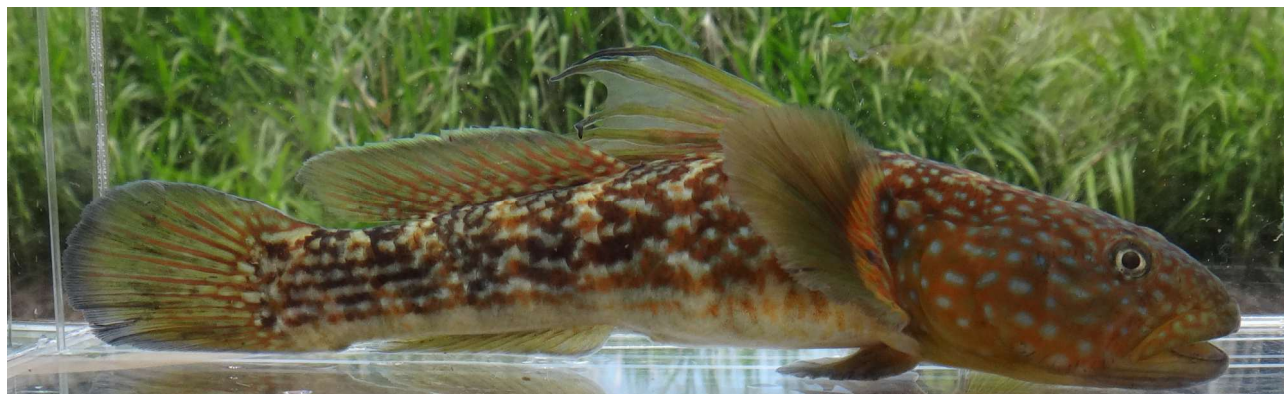


「ここがホットスポットです」と言われた場所を見て正直驚きました。カジカの生息地にしては、水が薄黒く色づいていて、水が美しくない。県には高い山がなく、雨量も少ないので、本来カジカが見られるような冷たくきれいな水が流れる場所はもともと乏しいそうです。川に入り、カジカが好む瀬に向かいました。白波を立てて水が速く流れるところで石をゴロゴロひっくり返してはタモ網を引き上げて中を確認していきます。川底の所々に、瓦が見られました。それはカジカの産卵床として、またカジカが普段身を寄せる場所として研究会が設置したものでした。そこは避けて下流へ、下流へ進みますが、カジカは全く入りません。少し開けた激しく流れる場所で、長男がやっと 1 匹捕りましたが (写真 14)、



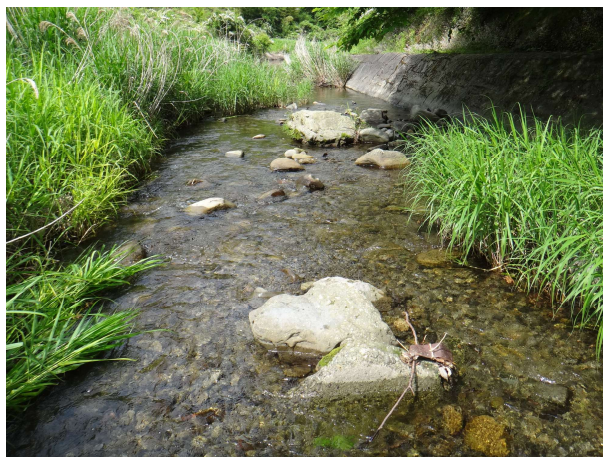
▲写真 14:カジカ

全員でも成魚サイズの個体が数匹捕れただけでした。生息が確認できたのは良かったのですが、研究会は再生産の証である稚魚や幼魚が確認できなかったことに肩を落としていました。ここではその他にカワムツ、ドンコ、オオシマドジョウなども同時に捕れました。驚いたのは、ヌマチチブが数匹捕れたこと (写真 15)。ヌマチチブは河川の河口から中流域に生息するハゼの仲間ですが、一般にはカジカがすむような場所では見られません。すごく違和感があり、この場所の特異性を感じました。



▲写真 15:ヌマチチブ

その後、移動して同水系にある支流の上中流域に行きました (写真 16)。そこは研究会がカジカを移植し、水域全体での保全を試みているところです。汗をだらだらかきながら、カジカを探し続けた結果、なんとか成魚 1 匹を捕ることができました。少し安堵していると、上流側で「おーっ！」という大声が谷に響きました。それは再生産の証である今年生まれの稚魚が捕れたからでした。ごく小さいわずか 1 匹に対するこの歓喜の声は、四国産カジカの危機的状況を表していると思いました。



▲写真 16:カジカを捕った支流